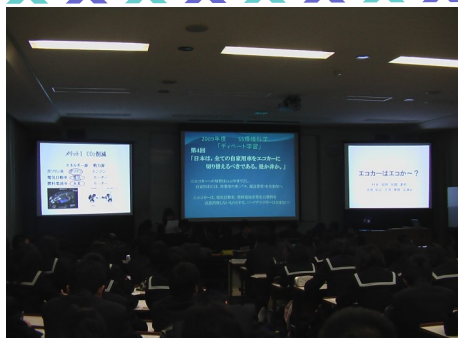




1年 SS 環境科学 ディベート学習

- 「日本は、商業捕鯨を再開すべきである。是か非か。」
 「日本は、環境税（炭素税）を導入すべきである。是か非か。」
 「日本は、遺伝子組み換え（GM）作物の販売を中止すべきである。是か非か。」
 「日本は、全ての自家用車をエコカーにすべきである。是か非か。」



1年環境科学科のSS環境科学の授業で、ディベートの学習が行われました。

今年のディベートの論題は、「日本は、商業捕鯨を再開すべきである。是か非か。」、「日本は、環境税（炭素税）を導入すべきである。是か非か。」、「日本は遺伝子組み換え（GM）作物の販売を中止すべきである。是か非か。」、「日本は、全ての自家用車をエコカーに

すべきである。是か非か。」の4テーマで、クラスごとに4つの班に分かれ、クラス対抗（肯定側・否定側）でディベートの試合を行い、熱戦がくりひろげられました。

論題に関する自己の意見

- 「環境のためにコストがかかるが、エコカーを導入すべきだと思う。」
 「GM作物でディベートを通して、人はもっと食に関することに興味をもつべきだと思った。」
 「肯定側も否定側も資料をたくさん用意していて驚いた。説明がわかりやすくてよかった。」
 「今まで環境税についてしっかり考えたことがなかったが、今回のディベートを聞き、知らないことが多く、もっと理解しないとイケないと思った。」



1年 第3回研究室訪問（大阪大学工学部） 講義 「地球温暖化と環境・エネルギーの研究」



2月12日（金）、大阪大学工学部環境・エネルギー工学科を訪問してきました。環境・エネルギー工学科は、持続可能な人類社会の文明を支える学術的な教育と研究を行うため、平成18年度から大阪大学工学部に新設された学科です。

講義「地球温暖化と環境・エネルギーの研究」では、環境・エネルギー工学専攻、共生エネルギーシステム都市エネルギーシステム領域 助教山口容平先生に講演していただきました。

1984年、ブルントラント委員会は、「将来の世代の利益や要求を充足する能力を損なわない範囲内で環境を利用し、要求を満たしていこう」という「持続可能な開発」の概念を打ち出しました。現代には、“地球温暖化など地球規模の環境問題”、“少子高齢化による社会の活力低下”、“国や自治体の財政の問題”等、いろいろな「持続不可能の種」がありますが、これらを統合的に解決していく方策を考えると「持続可能性」を取り上げる意味があることなどについて学ぶことができました。また、二酸化炭素濃度の変遷、温暖化の予測や影響、温暖化問題が他の環境問題と異なる点、太陽光発電技術を例にあげた温暖化対策などについて、詳しく教えていただきました。

参加生徒の感想より

「今回の講義を受けて、エネルギーを使わない産業や太陽光発電技術について、とても興味をもった。二酸化炭素を削減する方法にはどのようなものがあるかについて私の知らないことをたくさん学ぶことができ、もっと深く知りたいと思った。」
 「地球温暖化は今までの環境問題と違い、簡単に元にもどせるものではないことを聞き、とても重大な問題なのだ改めて実感した。」

SSH報告

1年 SS環境科学 ディベート学習

1年

第3回研究室訪問

大阪大学工学部

講義

「地球温暖化と 環境・エネルギーの研究」

